



都々逸エレキ冊子 どどどすぺしやる  
唄う阿呆に  
詠む阿呆



都々逸エレキ冊子

唄う阿呆に 詠む阿呆

—どどどどいつスペシヤル—



## はじめに

都々逸（どどいつ）は、江戸末期に初代の都々逸坊扇歌によって大成された口語による定型詩であり、七・七・七・七・五の音数律に従って詠まれる。

元来は、三味線と共に歌われる俗曲で、音曲師が寄席や座敷などで演じる出し物であった。主として男女の恋愛を題材として扱ったため情歌とも呼ばれる。

(Wikipedia より引用)

都々逸の名は知らずとも、その韻律に覚えのある人は多いのではないだろうか。

散切り頭を叩いてみれば文明開化の音がする

立てば芍薬座れば牡丹歩く姿は百合の花

今挙げたものは双方が七七七五、つまり都々逸のリズムを踏んでいます。

元が俗曲ですので音楽的リズムとも相性がよく、♪あわてんぼうのサンタクロース  
煙突覗いて落っこちた、なども、指折り数えてみれば七七七五になっています。

先にもある通り都々逸の元となるのは俗曲。江戸の大衆文化です。大衆文化となれば切り離せないのが洒落と色。

主と私はたまごの仲よ私白身できみを抱く

松という字を解いてみればきみとぼくとの二人連れ

上記は「洒落」の都々逸。さて、今回の本題は「色」でございます。

本書は以前発行した「都々逸エレキ冊子 歌う阿呆に詠む阿呆」から派生しました都々逸エレキ冊子の増刊号です。

今回のテーマは「どどどどいつ」。アクセル全開のエロの世界をご堪能ください。なお、テーマの都合上卑猥な表現が多々含まれます。予めご了承ください。なでは、いざ。

※ 「どどどどいつ」とは？

↓下ネタ。

# 目次

テーマ詠み「お伽話」 ◆ 7

題詠「夜」 ◆ 11

ボーイズラブ都々逸 ◆ 14

ガールズラブ都々逸 ◆ 17

入江川入江川入江川 ◆ 20

執筆者一覧 ◆ 25

夜伽話の間違いでしよう私をその気にするための





## テーマ詠み「お伽話」



俺の自慢のかちかち山が君のお池にどんぶりこ　　ひらたてる

下のおくちの蜘蛛の巣破り枯れ木に花を咲かせましょう　　小早川

股のシロからばら撒く灰で枯れた婆にも花咲かす　　下弦

歳を経たれば知りぬる術は枯るる泉に露の花　　卜部

股ぐら広げておうまの稽古　金玉太郎と人は呼ぶ　　ほいる

主とのくちづけ忘れられずに　今宵もむさぼる毒リンゴ　　楓ようこ

勝負パンツのオオカミさんに食べられちゃった赤ずきん　　月丘ナイル

精が出るまでこすってほしい　千夜一夜の物語　　猫亭屑屋

見るなど言われりや見るのは承知鶴は襦袢をはだけさす スコラブ

ベルト チャックと包みを解けば期待外れの玉手箱 せいや

いばらのお城の箱入り 何も知らないからだで君を待つ ころー

戻れぬ身だと爪立て泡に爛れた熱の祭壇で 鷗外

十二時の鐘を合図にドレスは融けた ベッドの下の下着たち あやめ

鬼も顔負け鉄棒振って 女も仕留めた力太郎 すいすい

凌辱姫はただただ眠る知らない方が良い秘密 砂漠谷レマ

一寸法師の小さな息子 槌で叩けば及第点 豆太

題詠「夜」



夜はいよいよ深みを増してももに瞬く赤い星 双葉屋ほいる

夢の十夜の契りも良いが一夜の夢を結びたい ルオ

仲睦まじくふたりで探す他人行儀の 10 ㊦ 猫亭屑屋

小夜啼き鳥はおねだり上手 朝を知らずに揺れる腰 月岡ナイル

ぬけがけはイヤ一緒にイって 夜の果てへと二人旅 楓ようこ

いかぬままでは終われぬ夜に掛けた浮橋軋ませる スコラブ

晩酌ですよと優しく剥いていただく君の初鱈 小早川

起こさないようそおっと出だす透けぬ袋の薄い本 下弦

冷えた布団に言い訳をして街へ連れ立ち夜を凌ぐ せいや

夜に言えぬで見送ったので君は知らじな首の花 ころー

畳目跡にぼたぼた垂らす膝に擦り傷夜通す 鷗外

紫の夜に包まり君の せな 背を爪弾く夜は長い あやめ

ごつい右手をあの子の手だと思ひたすら擦る夜 ひらたてる

誰も見てない月夜に指を足を吐息を絡ませる 福山桃歌

夜の窓辺に静かな羽音甘い吐息を隠す為 砂漠谷レマ

月の梅雨空尽く迄突かむ 露を貫く罪の筒 卜部

ボーイズラブ都々逸

※ ボーイズラブとは

↓男性同士の同性愛表現を指す。



待ての聞けない大型犬に嘸まれ潰れたカラー忠 豆太

聞けたらやるよと餌ちらつかせ荒い吐息を塞ぐ「待て」 豆太

隣で笑んで歩けやしないその背預けてくれりゃいい ルオ

友人代表スピーチくらいお前のためにやってやる 月丘ナイル

誰もが焦がれる高嶺の花が俺の下にて菊と咲く ころー

手の中の肉まん一口横から齧る (今キスしたらこんな味?) あやめ

熱い指先受け入れている 苦しめてくれどこまでも 福山桃歌

ただの男に戻れはしないまして友にもなれやしない 砂漠谷レマ



手綱振り切り乗り掛かる子の額弾いて「待て」をする せいや

なんかいちいちムカつくやつだ負けてやらねえぜってーに 南葦太

おれに見えない景色を見てる並べないから腹が立つ 小早川



ガールズラブ都々逸

※ ガールズラブとは

↓女性同士の同性愛表現を指す。



削れた形が私のじゃない薬用リップに口付ける 豆太

主とわっちのくちびる重ね交ざる口紅さくら色 双葉屋ほいる

可愛いジリー捨て去るための名前で呼んでロミナって ルオ

おっきな胸が羨ましくてすこし強めに吸う乳首 月丘ナイル

ここもあそこも甘たるい蜜溶けまじり合う口付けで 奈月遥

別のからだのあなたとわたし同じものから出来ている せいや

揺れない胸に揺らした心 二重のキャミじゃ隠せない あやめ

絡められない、なんて知ってる 重ねただけでつないだ手 あやめ

ピンクのリップに重ねたキスをちゅつと舐め取る回し飲み　すいすい

キスもえっちも出来ない代わりに恋の悩みを聴く権利　砂漠谷レマ



はいってません♥

ハハハハハハハハハハハ

神戸節とは―都々逸を五つ並べて節をつけて唄う、

都々逸の元となったお座敷唄。

その下ネタ版、それが「ハハハハハハハハハハハ」。

## なぞなぞ

朝は四本、昼間は二本、夜は三本、これなんだ  
 人間でしようとお主は言うがいいやこいつは俺の事  
 朝は四つ足なんとか起きて昼は二本の足で立ち  
 夜は勃たせて三本足の血気盛んな俺の事  
 だから今宵は烏を殺し主と朝までしていたい

小早川

## 花を食む

甘い素肌に吸い寄せられてかじりつくたび乾く喉  
 喉の渴きを潤したくて飲めば飲むほど湧く泉  
 細い腕に呼び招かれて鼻を埋めるやわい肉  
 食われているのはお前かおれか逃がしやしないと絡む足  
 くれろくれろと強請っちゃいるがゴムに隔たれくれられぬ

豆太

かわいがる

指に当たった硬さが好きよもつと求めてほしくなる

服の上から優しくなでるもどかしいでしょう嫌でしょう

下げてあげれば待ちきれないと弾け出てくる可愛い子

キスを降らせて吐息をかけてこれじゃ足りない？ままだーめもつとあなたを追い詰めたいな口を開くわ覚悟して

ひらたてる

Once Upon a Time

アーモンドの肌サテンをするりお願い3つ聞いてやる

やっと思つけたあの日のお方ほくのサイズも合うといい

キスで起きるは己の小人したのお口も毒リンゴ

海の底には憧れの君 泡をまもつて抱きしめた

真の愛など分かりはせぬがせめてこの薔薇枯れるまで

ねん

四十八手にやまだ遠い

主に寄り添いこたつに隠れじつと見ている窓の月

椋鳥、千鳥も鳴かない夜に鳴門目指して押し車

深山の浮き橋渡ってみたい、どうか乗せてよ宝船

理非も知らずに流鏑馬射られ解けぬしがらみ抱き地蔵

獅子が舞うよに抱き上げられりや乱れ牡丹の花が咲く

小早川

耳でする

世間話が終わって無言熱の集まる電話口

どちらともなく利き手を伸ばし夜の動きをなぞり出す

唾を飲む音すらたまらない耳のすべてで君を聴く

「あっ」て一際高まる声につられ力が入る足

荒い吐息を互いに聞かせ愛のありかを思い知る

ひらたてる



ほめろほめろ

何度何遍押し倒されりや理解するんだこの阿呆

いやと言うなら今やめてやる欲しけりや欲しいと言ってみる

口先ばかりの抵抗ですら保ちきれない甘い喉

可愛くもない体に落ちるどちらのものともつかぬ精

有無を言わさぬ性欲をして愛というなら愛してる

豆太

GIGANT  
OTAMA



## 執筆者一覧（五十音順・括弧内ツイッターID）

あやめ (@ayameyame) ぶぶいっは怖くない(真顔)

ト部 (@n\_urabe) 詠草遅漏気味也けり

鷗外 (@vorice)

枯れたどどどが絞りカス。なかなか詠まないどどど楽しかったです。

楓ようり (@duomapple) どどどって深い!!参加できて楽しかったです。

下弦 (@kagen\_s) 半ばヤケ気味

小早川 (@dodoitsu) 二児に体力ほとんど取られ二手が限界だと悟る





べろー (@urashimagorou)

ムツツリですが、今回はオープンスケベ目指しました。どうでしたでしょうか



砂漠谷レマ (@splanxizomai)

腐ったメガネで世界を見れば心のちんこがいきり勃つ



すいすい (@tnsul\_sui) エロよりギャグに走りがち



スコラプ (@scope\_scape) (元) パンツ王らしい仕事をしました



せいや (@petitchante) 職場の皆様にと下座しようと思えます(心で)



月丘ナイル (@nyle\_222) 清纯派なので難しかったです♡



奈月遥 (@you\_natskey) えろってむずい！



ななし (@LirEis\_WF) はじめてです



猫亭屑屋 (@gatta\_auto) 普段詠まないジャンルなので一生懸命に詠みました



ねん (@endofthe) 初めてなので優しくしてください



ひらたてる (@BB\_teru) どどど脳が鍛えられました

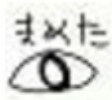


福山桃歌 (@peachsong\_521) どどど難しい…！精進します。



双葉屋ほいる (@hoiru\_utayomi)

どどどという名の胎教がサラブレッドを生みそうで怖い。



豆太 (@qwerty\_misp) 壮観です。ご協力ありがとうございます。



南葦太 (@asita) 本業は短歌屋です(サミツ)



ルオ (@ruo129) 艶めいた話は隠喩に逃げたくなる、文字書き白臍です。

以上 二十二名

都々逸エレキ冊子 唄う阿呆に詠む阿呆

二〇一六年二月二十八日 発行

執筆 都々逸クラスタ一同

装丁 猫屋久太

挿絵 下弦、東風

編集 小早川、豆太

本書の内容についてのご意見・お問い合わせは  
編集者のツイッター([@dodoitsu](https://twitter.com/dodoitsu))にお願いします。

